

令和5年度 第3回史跡カリンバ遺跡整備検討委員会 議事録

場 所：オンライン会議（恵庭市役所 2階 201 会議室）

日 時：令和6年1月30日（月）9:00～9:50

出席者：

（委 員）高瀬委員長、加藤委員、西村委員、吉田委員、脇谷委員

（オブザーバー）文化庁 中井調査官、北海道教育庁 内田専門主任

（事務局）郷土資料館 高野館長、長町主査、杉浦主事

■開会

■議題

(1) 市内部の現状（予算等）について

<事務局>

令和6年度の史跡整備（基本設計）の予算ですが、市財政課への予算要求後、順調に進んでおり、3月市議会で議決されれば、基本設計の委託費用と委員会の開催費用の予算化が決定する見込みです。

●意見・質問

<A 委員> 順調に進んでいるということで安心いたしました。

(2) 整備基本計画（改訂版）について

<事務局> 「史跡カリンバ遺跡整備構想イメージ図（短期計画）」を移動し、長期計画と一目で比較できるように、見開きで掲載しました。その他は語句等の微修正や体裁を整えました。

●意見・質問

なし。

(3) 今後の進め方について ①令和6年度の基本設計について (ア) 見学ポイントでの見せ方について

<事務局>

議題について説明。

●意見・質問

なし。

(3) 今後の進め方について ①令和6年度の基本設計について (イ) 史跡カリンバ遺跡整備基本設計委託業務仕様書

<事務局>

議題について説明。以下補足説明。市としては令和6年の5月中には設計委託業者を入札により選定し、6月の早い時期に委員の皆様、オブザーバーの文化庁と北海道教育委員会のお二方、委託業者、市の土木課に史跡現地に集まっていたいただき、現地を見ながら基本設計についてご意見をいただきたいと考えております。

●意見・質問および回答

<D委員>『史跡カリンバ遺跡整備基本設計委託業務仕様書』3頁の「2 業務内容」の「(5)基本設計説明書の作成」の文言について、基本設計説明書の作成を行うということで、この中には基本設計図や解説が入っていますが、この文言は一般的に使われている文言でしょうか。例えば、基本設計図及び説明書といった表現もあると思いますが、どうなのでしょう。もう一つ、意見ではなく感想ですが、4頁の(6)について、鳥瞰図とありますが、対象地を鳥瞰図にするとフラットに見えてしまいます。敷地面積に対して高さがあまりないので、実際に作る際は工夫しないと単なる森と空き地があるだけの絵になってしまいます。例えば周囲の河岸段丘を表現してもらい、対象範囲を広げて作成してもらい、横のスケールと高さのスケールを変えてもらいといった事をやってもらう必要があります。鳥瞰図と透視図については、お金がかかると思うので、受託した後でも良いですが業者に一言伝えておいた方が良いと思います。

<事務局>2番目の鳥瞰図については承知いたしました。おっしゃる通り、高低差があまりないので、その点留意してまいりたいと思います。最初の質問にありました、3頁の「2(5)基本設計説明書の作成」について、こういった表現が良いか委員の皆様にご教示いただければと思います。

<D委員>基本設計説明書に括弧書きで内容を付け加えていただければ良いと思います。例えば、設計図だとか説明書等があると思います。また、キウスを含めた他の場所の説明書の項目の中をピックアップして入れていただくのも手だと思います。鳥瞰図と同じように業者が決まってから伝えるのも良いし、事前に記しておくのも一つの手だと思います。今回の設計は標準設計である程度できてしまう内容だと思います。難しい内容やデザインが無いので、どちらかと言いますと、こういった展示内容にするかという点が争点になると思います。実施設計や施工する際に指示する内容かもしれませんが、今回この業務委託を出して、設計自体は難しいものではなく、見学ポイントに行き、過去に思いをはせる手段にはどこが一番良いかという話だと思います。その時に、隣に説明板や解説板、看板中のコンテンツをどうするかということが大きなポイントになると思います。それが無ければ、一般の人には解説書に書かれているようなものがあっても想像できないと思いますので、そのあたりの内容が次回の委員会で専門家のご意見が出てくると、こういう方法で作れば良いのではないかと等という話ができると思います。この辺の話 今回の業務委託の中で検討できれば、次回の実施設計のときに役立つと思います。基本設計の説明書の中で、こういったものを出してくれ等、相手の業者に伝わると良いと思います。そうすれば相手

業者も展示に携わったことのある人を連れてきてくれると思います。

(3) 今後の進め方について ②令和7年度以降の実施設計と現地整備について

<事務局>

基本計画改訂版の77頁「表9 年次計画」をご覧ください令和7年度に実施設計を予定しております。令和8年度に現地整備を予定しておりますが、近年文化庁の史跡整備の国庫補助は50%程度カットされていると伺っております。ですので、カリンバも整備実施は令和8・9年度の2か年もしくは3か年になる可能性がありますことをご承知おき下さい。

●意見・質問

なし。

(3) 今後の進め方について ③令和6年度以降の委員会について

<事務局>

令和6年度以降も現在の委員会の名称「史跡カリンバ遺跡整備検討委員会」を継続し、委員の皆様にも継続をお願いしたいと考えております。任期は令和6年4月から令和8年3月の2年です。

●意見・質問

なし。

■議題

(4) その他

<事務局>先ほどの『見学ポイントの見せ方について』という資料についてです。見学ポイント②で、市道団地中央通りをARやVRで見るとなると、現地との距離が20mほど離れている中でどのように見せるかをお伺いしたいです。例えば、香川県では石垣にタブレットを向けると天守が見えてくるというものがありました。カリンバの場合、道路の下に合葬墓がありました。そのため離れた場所から当時のお墓の様子などを見せる必要があります。その手法として委員の皆様の中に、アイデアや、ご意見があればご教示いただければと思います。

●意見・質問および回答

<オブザーバーA>先ほどの事例は、香川県の屋島という古代山城でして、石垣とCGを合わせたARです。もともとの遺構を復元したものにCGを合体させたものです。カリンバの場合は、もともたないので基本的にはVRで周りの環境を含めて再現しないとわかりづらいと思います。また、発掘調査現場をCGで再現する場合には、現地の上に立って下を見ると発掘した状況が見えるという方法を取りますが、カリンバの場合は道路の上でやるわけにはいかないので、少し離れたところに立ってVRで再現して、あとは何かの機能で拡大して見せるという2段階でやるしかないと思います。

<A 委員>現状は道路で全てが無くなっていますので、VR で道路の部分をすべて再現する方が現実的かと思います。道路の脇で熱中してしまうと危ないので、そのあたりも注意が必要だと思います。他の地点についても、AR などをお考えなのでしょうか。

<事務局>はい、同じことを考えています。見学ポイント⑤についても、遠い位置から調査の成果を見せるということになるかと思います。③・④については、現地に近づいて見ることができるので比較的表現しやすいと考えています。

■閉会